

委員長 傍聴につきまして、ご報告をいたします。

3名の方から傍聴したい旨の申し出がございました。

教育委員会傍聴人規則に基づきまして、これを許可したいと思いますので、どうぞご了承  
ください。

---

#### 開 会

委員長 それでは、ただいまから平成14年3月定例教育委員会会議を開催させていただきます。

ご承知のとおり市議会が開会中でございますので、やや変則の形で本日開かせていただき  
ました。ご出席いただきまして、ありがとうございます。

---

#### 議事録署名委員の選任

委員長 開会に当たりまして、本日の会議録の署名人を根守委員にお願いいたします。どうぞ  
よろしくお願いいたします。

---

#### 議案の提出

委員長 日程に従いまして議事を進めてまいりますが、本日ご提案申し上げます議題は、議案  
9件、報告等1件でございます。議案の中には、予算に関しますものが2件入っておりまし  
て、これが一番メインの課題になろうかと思えます。

---

#### 議案第7号

委員長 早速ですが、議案第7号「平成13年度3月補正教育費予算について」を議題といたし  
ます。

事務局のご説明をお願いします。

企画管理室長 議案第7号「平成13年度3月補正教育費予算について」。

平成13年度3月補正教育費予算について、別紙のとおり松戸市議会3月定例会に提出する  
よう、市長に申し入れをする。平成14年3月4日提出、松戸市教育委員会教育長齋藤功であ

ります。

今年度最後の補正になろうかと思えます。松戸市では4回目の補正になります、3月補正に出すものを計上いたしました。

1ページ目をごらんいただきたいと思えます。

一番下のところにございます 139億 3,971万 3,000円が当初予算でございまして、補正前でございます。今回補正いたしますのが、2億 7,297万 8,000円とございまして、合わせまして 142億 1,269万 1,000円となるわけとございます。

それぞれの項目につきましては、記載のとおりとございます。

次のページ、2ページ目とございます、これは人件費と事業費を出したものとござい  
ます。

教育総務費から保健体育費まで、合わせまして 2億 7,297万 8,000円の補正額になります。うち人件費につきまして、6,432万 2,000円を減額いたしました。事業費といたしまして、3億 3,730万を増額の補正とさせていただいたものとございます。

次の3ページをもちまして、概略のご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、総務費の事務局費とございまして、人件費のところは 6,212万 8,000円とござい  
ます。これは増額させていただいたわけとございまして、職員が退職いたしまして、その分  
の手当てがされていなかったものとございまして、その手当てをさせていただいたものと  
ございまして。高志の基金、82万 5,000円につきましては、これは利息とございまして。

それから、小学校、中学校、高等学校のそれぞれの一般職人件費等とございまして。これは  
減額になっていまして、これにつきましては、年度末の条例改正をもちまして、0.05カ月職  
員の手当等がカットされました。その分が不用となりましたので、減額という形をとらせて  
いただき計上したものとございまして。

続きまして、小学校費の大規模改造につきましては、寒風台小学校の改修の増です。

それから、教育振興費のコンピュータの関係とございまして、36万 2,000円、これは減額  
にさせていただきます。

中学校におきまして、それぞれ事業別の減額とございまして、これにつきましては、契  
約に伴う差金とございまして。

それから、同じ中学校費の学校建設費の中でございまして、増額として 6,582万 5,000円  
とございまして。これは情報通信技術の関連特別対策事業という形で計上させていただいて  
おきまして、現在12の中学校におきまして、校内LANが整備されておきません。国等の補助

金等を受けることになりまして、ここで一気に12校の整備をさせていただきたいと思っております。

それから、高等学校でございますが、高等学校の場合の person 費の増につきまして、1,030万9,000円でございます。これは図書館司書等の増によるものでございます。

それから、振興費のところでございますが、情報機器整備のところ、減額が1,137万5,000円ということでございます。これは契約差金でございます。

それから、幼稚園費等につきましての person 費等は、先ほど申しましたとおりでございます。社会教育費の中で、視聴覚教育経費ということで、20万増額になっております。これは市民の方々からの寄附がございまして、その寄附に基づきまして目的使用するものでございます。

それから、保健体育費のスポーツマスタープランの策定の減額300万でございます。13年度にスポーツマスタープランの作成を予定しておりましたが、現在松戸市の教育改革を含めました生涯学習基本計画、これと整合性をとるために、来年度に持ち越していただいたものでございます。

それから、一番下段になりますが、体育施設費でございます。栗ヶ沢公園等テニスコートの管理運営費の中で、施設の増設ということで、2億6,101万5,000円を新たに計上させていただきます。

非常に雑駁でございますが、以上でございます。

委員長 お聞きのとおりでございます。補正額としては2億7,297万8,000円と、こういうことになっておりますが、先生方、何かご質問ございませんでしょうか。

小学校、中学校、幼稚園、全部通して person 費が減になっていますね。これはさっきおっしゃったように、0.05のそういうカットという。ですから、人数が変わったとか、そういうことではないですね。

企画管理室長 そういうことではございません。基本はそこにあります。

委員長 何かございますか。

飯沼委員 3ページの栗ヶ沢公園等の補正ですけれども、補正前、補正後、増が2億6,000とかなりの額なんですけれども、これは前もって事前には予想されなかった額なんですか。

企画管理室長 栗ヶ沢公園のテニスコート、これは金ヶ作を含めましての話でございます。常盤平の金ヶ作公園にありますテニスコート4面、それから栗ヶ沢にあります11面、このテニスコートとあわせて、管理棟等のバリアフリーを始めるために計上したものでございまして、

詳しくは今、スポーツ課長の方からご説明させていただきます。

スポーツ課長 松戸市の中で28面の公営テニスコートがございますが、中でも栗ヶ沢がつくってから30年、金ヶ作は40年たっており、老朽化が目立ってきたということでございます。

さらに、全国大会も砂入り人工芝という仕様になってしまいました。残念ながら、松戸市だけはその仕様になってございません。砂入り人工芝と申しますのは、浸透性の舗装をして、それに人工の芝を張って、砂を詰めていくということで、そうしますと障害者の車いすの大会等もできるということでございますので、それをかねがね私どもスポーツ課としてやりたいということで、14年度予算計上したいということで調査研究しておりました。ところが、この修繕についてはなかなか補助が得られない。新設の場合には、文部省とか旧自治省、総務省も補助があるんですけども。

そこで、今回、何らかの国・県の支援がないかということの中で、総務省の中で、地総債  
\_\_\_\_\_地域総合整備事業、ふるさとづくり事業という起債事業でございますが、特別債のその  
事業制度をご紹介いただきまして、直接研究検討を進めているうちに、この対象でよかろうと。バリアフリーも含めて施設整備をしていくべきだろうということでありました。

ただ、この制度が13年度限りでなくなってしまうということであり、国からの内示が去年の11月14日でございますして、13年度の追加分ということで、教育長からのご指示もいただきまして、何とかして13年度中に間に合わせるべきじゃないかと。緊急に補助金の補正ということになったのは、そういう制度を使わせていただいて、国が何らかの財政措置をするということの裏づけを得たものですから、お願いをした次第です。

内容につきましては、徹底したバリアフリー化をします。そして、高齢者や障害者ともども、特に車いすのテニスが普及しており、全国大会も開かれておりまして、松戸市には車いすテニスの愛好者もございます。そういうことで、車いすでの利用も可能にするということと、あと機能的に、例えば駐車場スペースをちょっと増設する、あるいは身障者の人の専用駐車場、あるいはベンチも非常に少のうございましたので、それらについても整備をする。あわせて大きな大会は最低15面、16面規模で必要なものですから、そうしますと栗ヶ沢が11面、金ヶ作が4面でございます。ここでIT機器等をフルに利用しまして、小・中学校の大会等も、上位に続く予選会等も、その11面と4面とで大会が開催できると。今までは、女性のこの大会あるいは男性のこの大会ということで、2日間に分けていたような大会もございまして、近くの民間のコートを借りていたような大会もありますが。また、雨で年間約1月ぐらいは使えないことがございましたが、それらのことも解消できるということで、きょう

補正の常任委員会等がございまして、先ほどご審議いただいたところでございますが、内容については以上です。

委員長 わかりました。ありがとうございました。

この資料の13ページをごらんになりますと、ここに今、課長に説明していただいたことがかなり詳しく書いてあります。

そうすると、これ約2億6,000万の予算を組んでいるんですが、このうち、国の補助はどのくらい当て込めるか。

スポーツ課長 約9割です。

委員長 そうですか、それはむしろ、これ絶対しないと損ですね。

教育長 9割というのは、直接補助があるわけじゃないんですけども、起債が9割という。

その起債の返済については、地方交付税でという。

飯沼委員 では、本当頑張ってくださいね。

教育長 それで、大変いいことだと我々も自画自賛しておりますが、いろいろなご意見をお持ちの方もいらっしゃいますんで、問題点を指摘されたり、あるいは今やるべきじゃないんじゃないかというご意見も一部にはございました。現に、きょうの総務常任委員会の席上でも、ある政党会派から、一部ですけれども、異議の申し立てが出ています。

これは民主主義の世界ですから、全員反対、全員賛成でなければということからすると、ある意味ではいいご意見をちょうだいしたかなど。

その一つは……。

よろしいですか、一応経過を説明して。

委員長 どうぞ。

教育長 スポーツ課長が申し出ておりまして、飯沼先生もご指摘されましたけれども、なぜ補た

正でかなりの額の改修工事を唐突に出してきたんだという、そういうご質問でございまして、これだけのものなら、当初予算でやった方がいいんじゃないかというのが意見です。

それについては、今、スポーツ課長がご説明申し上げたとおり、現時点では妥当性、正当性は主張できるんじゃないかということで、賛同を得て、また理解を得ているわけでございます。

ただ、もう一つ指摘されております点は、今ソフトテニス連盟と松戸テニス協会という硬式の協会と大きな2つの協会がありまして、それぞれその協会の傘下に会員クラブが、何十団体ということであるわけですが、その団体がこの2カ所のテニスコートの実質上の管理運営面を市から委任を受けるような形、正式に委任はしていませんけれど、受

けるような形で効率的に運用をしている、活用をしていると。このことに対して、一方では、一般テニス愛好者が行ったときになかなかできないというクレーム、問題も若干存在するわけで、もっと一般開放枠をどんどん広げるべきだと。それをしないで、この改修工事をするのはいかなものかという。そういうふうな問題提起がされた。

そういうことは、私どもの方で一応承知しておりますし、一般開放での努力はするべきだというふうに思っておりますが、現に昨年の4月から、このソフトテニス連盟と協会が歩み寄り形で、これだけの問題ではなくて、今後テニス界をどうやって発展させたいかという協議、検討のテーブルについていただきました。そのテーマの大きな一つとして、一般開放枠の拡大といいますが、改善策を協議して、この改修なったテニスコートのオープンのときから、それを適用していこうと検討を進めておるところでございます。

ここからは、私のある程度私見の部分もあるんですけども、そういう努力はしていきますけれども、それではすべてを一般開放にしてしまうことを最終の目標とするのかと、それを目的とするのかと、そこまで改善の努力をしなければならないのかという、私はそうではないというふうに思っております。もちろん改善は必要ですけども。

それは、両団体の管理運営は、単にコートを利用を調整するという意味以上の効果があるというふうに考えております。つまり有効性と効率性が高いということに、今の運営方式は特徴があるというふうに思っております。

具体的に申しますと、両団体ともテニス教室を開いたり、初心者コースを設けたり、いろいろな手だてを講じまして、テニス愛好家をふやしていく。そして、そこで定着したテニス愛好家が、それぞれのテニスクラブの傘下に入って、連盟、協会を形成していくと。底辺の広がり組織の拡充、強<sub>\_\_\_\_\_</sub>普及と拡充、強化ですね。それに果たしてきた役割というのは、大変大きなものがあります。底辺が広がるということは、頂点のレベルを押し上げておまして、最近の松戸市のテニス界というのは、非常にレベルが高いという内外からの評価をされておまして、とりわけ中学生が県大会優勝、関東大会優勝、全国大会何位というような、そういう好成績を上げておりますのも、両団体が果たしてきた大きな成果であるというふうに思っております。

2つ目には、団体が市のコートの貸し出し管理を行うことによって、多くの愛好家の機会均等化を図ることに、かなり効率よく使用させている現状があります。このことによる効果があるにつけては、規則をしゃくし定規に適用して、漫然と機械的に貸し出しを行うよりも、はるかにこの方が効率がいいし、配慮もしているんじゃないかということがうかがえます。

かつて昭和48年に、千葉国体のテニス会場が松戸市となりまして、一躍松戸市の名を高め、実力を示したわけですけれども、それ以前はテニス人口も少なく、レベルも決して高くはなかったというふうに聞いております。両団体がテニスの普及活動を実践して、組織を強化していくことによって、内外に誇れ\_\_\_\_\_自画自賛で恐縮ですけれど\_\_\_\_\_テニスの松戸、  
る

松戸のテニスというふうに評価をされていることがありまして、このことを考えるならば、一般開放をすべてにするということは、ベストの方策かということ、そうではないと。今後検討する必要があるというふうに思います。

しかしながら、組織の成熟化が進みますと、完成度が高くなりますと、反面やはりどうしても、テニスによらず、どんな組織でも硬直化が始まりまして、さらなる発展にブレーキをかけかねないことも危惧されます。外部から見て、そういった点で多少閉鎖的に、排他的に映るのかなというふうに思い、この点は行政も反省するし、両団体も問題、課題意識を持ってきているようでございますので、これからますますこれを契機に、いろいろな運用面、適用面等々の改善を図っていくということで、教育委員会として、これは声明を出す必要があるんじゃないかというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員長 わかりました。

私もあそこのテニスコート、若干関係していたことがありました。大体、今、教育長おっしゃったこと、ほぼ私も全面的におっしゃるとおりだと思います。

それで、やはり秩序ある使い方、それから今の使用考慮済みというような、それから一方、使う公平性ということも考えなければいけないだろう。そういう点では、今のあり方でよろしいんじゃないかなと思います。

ただ、一般開放の部分というものをどこら辺まで入れるか、それは課題です。確かに、それまで全部排除しちゃうと、どうしても市民の方から問題提起が出ると思います。ですから、ちょうどこういう改修の機会に、両方の、今、教育長おっしゃったように、教育委員会が\_\_\_\_\_スポーツ課です\_\_\_\_\_が間に入って、いろいろ使い勝手についての反省会を一度持つ  
か

と、これ非常にいいと思います。

そうすると、やはり今の問題点それからこれからのあり方等、すっかり洗い出すと。ちょうどいい機会だから、ぜひそれをおやりになったらどうでしょうか。

教育長 これ今、スポーツ課が中心になって、両団体に働きかけてやっております。ひとつスポーツ課長、よろしく。

スポーツ課長 5月から、なかなか協会と連盟、硬式と軟式ということで、1つのテーブルで

話し合いということにはなかったんですが、両協会の役員の方々にお集まりいただきまして、今の現状等々をよく理解し、それからはもうずっと、月に1回ぐらいのペースで両協会、話し合いをしております。今日的な課題についても共有しておりまして、今の改善についても……。きょうも議会に40人からの方々の建設的な傍聴がございまして、そんな意味で、開かれたテニスコートと申しますか、市民に向けても理解が得られるようなテニスコートの活用に向けて、具現化に努めていきたいと思っています。

委員長 どうぞよろしく、ひとつ。

飯沼委員 私は基本的にはもう賛成ですので。ただ、額が多かったんで、単純に伺っただけで。

何度かあのテニス、毎年行っていますが、本当にもう直した方がいいし、今おっしゃったとおりの理由が、きちっとしたものがあると思いますので、これからのためにも、教育長おっしゃるとおりに、はっきりした方針があるわけですから、ぜひ頑張っていたきたいなと思います。

ありがとうございました。

委員長 今、教育長おっしゃったので大体尽くされています。

じゃ、その他、ほかの項目についていかがでございますか。

(「結構です」の声あり)

委員長 よろしゅうございますか。

それでは、次の課題もございますので。

それでは、採決させていただきます。

議案第7号につきましては、原案どおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 それじゃ、ご異議がないものと認めまして、議案第7号は原案どおり決定いたしました。

---

#### 議案第8号

委員長 それでは、引き続いて予算でございますが、議案第8号「平成14年度教育費予算について」を議題といたします。

どうぞ、事務局からご説明を。

企画管理室長 議案第8号「平成14年度教育費予算について」。

平成14年度教育費予算について、別紙のとおり松戸市議会3月定例会に提出するよう、市長に申し入れをするものとする。平成14年3月4日提出、松戸市教育委員会教育長齋藤功であります。

これから14年度の予算につきましてご説明申し上げたいと思います。

まず、説明に入る前に、本年度の予算編成に当たりまして、松戸市全庁的な取り組みといたしますか、考え方がありましたので、それをご紹介します。

まず1つは、総合計画の第1次実施計画の最終年度に当たるということから、計画の推進、完遂といたしますと、なかなか完遂はできないんですが、その推進に意を尽くしていこうというのが1つあります。

それから、もう一つは、財政が硬直化したしまして、非常に経常経費が高くなっています。そういったことで、なかなか政策費の方にまで資金が回っていかない現状にございますので、ここでもう一度、経常経費の査定についてしっかり見て、各項目ごとにその査定を決めていこうということがとられました。したがって、かなり精査された金額になっていると思います。

平成14年におきましては、教育委員会の予算が、そちらに書かれておりますように、当初予算といたしまして\_\_\_\_1ページをごらんいただきたいと思いますが\_\_\_\_137億2,091万2,000円という形で一応決まりました。本年度の当初が139億1,121万4,000円でございますので、1.37%ぐらいの減になったというふうに理解しております。

それで、じゃ教育委員会で今回の予算を立てる中で、どういうことが主に吟味されたかと。

1つは、教育改革の懇話会が提言いただきまして、本年度はその策定に入らなければなりません。年度末までをその期間として見ているんでございますが、できるだけ早いうちに、その策定に着手しなければならないというのが1つございます。

それから、これはまだ直接的な形で、どのような考え方があるというのではなくて、まだまだ検討の段階になろうかと思いますが、少子・高齢化社会に適合した教育資源の再配分ということも考えていかなければならないというふうに考えてございます。

従来、20年、30年ずっと引き続いてきたものを、先ほど申しましたように、経常経費で見えていたから、ずっとこれからも経常経費で見ようじゃないかという時代から、そういったものの中で、少し見直しをかけていかなければ。これは、もちろん教育改革の懇話会からの提出もあるでしょうし、教育改革そのものも引っかかってくるものもありますので、そういったものとリンクさせながら考えていかなければいけないというふうに考えております。

それから、もう一つは、開かれた教育行政を目指してということで、教育委員会の方でホームページを開いておりますが、それを充実させていきたいということでもあります。

今年度からも、一部では学校評議員の活用によって、地域の方に期待しているわけですが、これも来年度はもう少し充実していくのかなというふうに思います。

それから、児童・生徒の方になりますが、基礎基本を習得できるようにしようじゃないかというのが一つございまして、一つは、小・中学校における情報教育の充実をしていきたいと。

それから、もちろん市立松戸高校におきまして、今年度かなり意を尽くして投資いたしました。来年度やれば、一応高度情報化社会に貢献できる、もしくは対応できるカリキュラムが組めるような設備にしていきたいというのがここにあるわけです。

それから、今、子供さんたちを含めて、先生方もそうでしょう、それから保護者の方々もそうでしょう、いろいろとお悩みがあるようでございますけれども、スクールカウンセラーの充実も図っていきたいという考えであります。

それから、次は市民の方々に対して、じゃ今度はどういう学習ができるように。これは社会教育の分野が主になってくるかと思いますが、生涯学習コーディネーター的な、いわゆる相談のできるようなことをまずしていきたいなど。それから、スポーツ指導者の派遣事業なんかもより充実させていきたいという思いがございます。

それから、図書館と生涯学習会館のお話というのは、前々からずっとあるんですが、この辺もぼつぼつ検討に入らなければならないというふうに思っています。

それから次は、市民が誇りを持って文化活動が創造できるような、そういう場面をつくってきたいということで、13年度でございますが、紙敷の斉藤邸におきまして、一部工房を用意させていただきました。特に竹紙をつくるための用意ということで。これを一つの松戸市の独自の文化として定着させるべく、活動が来年度ではいよいよ始まるのかなというように見ております。

それから、博物館、戸定館におきましては、それぞれの趣向を凝らした形で、市民の皆さん方に親しみのあるような形での特別展等々を開いていきたいというふうに企画してございます。それから、東京工芸学校の作家の作品展なんかも計画してきたいと思っております。

それから、もう一つは、市民の人権意識を高めるというようなことから、児童・生徒における人権教育それから教職員の人権教育、社会教育における人権学習というようなことも進めていかなければならないという、こういったことを念頭に置きながら、予算を組ませてい

ただいているというふう思っております。

では、本文の方の2ページからご説明申し上げたいと思います。

教育委員会費でございますが、ここでは減額になっておりますが、これは交際費等の見直しをしたものでございまして、また負担金とかの見直しもかけたものでございます。

それから、事務局費でございますが、1億7,000万ばかり上がっていると思います。ここでは再任用の関係が含まれておりますので、ふえております。懇話会は先ほど申しましたとおりでございます。それから、ホームページにつきましては、100万ほど用意させていただきました。なお一層努力していきたいと思っております。

それから、教育研究と指導の辺でございますが、この中では、その枠の中の上から5番目にございます教職員の教科書でございます。1億7,000万余りになっております。ことしから教科書の改定がございました。事務局で改定がございましたので、それを用意することとさせていただきます。そのほか副読本、心の相談とかそういったものでございます。

それから、林間学校につきましては、これは運営費を少し減らさせていただいております。

それから、学校教育、小学校の部でございますが、小学校の方につきましては、修繕等が少し少なくなっております。

次ページ、3ページでございますが、上から4番目、5番目になりますが、児童・生徒の机と椅子でございます。5,900万の予算でございますが、これはJIS規格で変わってございまして、老朽化も進んでおりますので、3年間をかけまして、小・中学校両方とも変えていきたいというふうに今計画して、3年間計画で、進めていきます。

それから、教育振興の方でございますが、教育のコンピュータ関係で2億5,600万ということで、これをもちまして、小学校の方もより一層コンピュータの授業がしやすいように整備をしていきたいと思っております。

それから、総合的学習の推進につきまして、376万円を追加させていただきまして、総合的学習の推進を考えております。

それから、そのところがございます学校建設費の中で、各校の諸工事費用ということで4,500万あげております。この中には、もう既に新聞でご存じだと思いますが、ことしの2月から3月にかけて、馬橋小学校で地域の皆さん方にLAN工事をやっていただきました。学校LANの、いわゆるコンピュータの配線工事ですね。そういったことをやっていただきました。今年度もますますそれが活発になるんであろうというようなことから、予算措置もされております。

それから、中学校の部にまいりまして、先ほど申しましたように、机、椅子等の取りかえをやっていきたいというふうに思っております。

次ページの4ページ、教育用のコンピュータにつきましても同様でございますし、総合的学習につきましても同様でございます。

それから、高等学校費でございますが、特にここでは、それぞれの英語の助手とか海外派遣研修の費用とかというものをとっておりますが、情報教育基盤の整備、これで4,000万つけまして、これで市立松戸高等学校の方の情報教育につきましても整備はほぼ終わります。

それから、幼稚園でございますが、この件につきましては、振興費といたしまして、それぞれの私立幼稚園に対しましての補助が主なところでございます。

それから、社会教育費、公民館費、それぞれにつきましても記載のとおりでございますが、先ほど申しましたところを念頭に置きながら活動を進めていきたいというふうに考えております。

それから、青少年指導費のところでございますが、こども育成の中には、去年は松戸の方から鳥取県の倉吉市、これは二十世紀梨が取り持つ縁で、二十世紀の梨は松戸が原産地でございますが、生産高は、今鳥取の方がずっと伸びております。そのことから、二十世紀の梨が取り持って、地域社会同士の交流が始まっているわけでございますが、産業だとか農業のみならず、子供たちの交流も始めて、文化活動をしていこうというようなことから、その計上もさせていただいております。

それから、社会教育施設の方でございますが、ここにつきましては、市民会館、市民劇場、文化会館等々の予算をあげさせていただいております。

それから、博物館につきましては、特別展の経費をつけてございます。

それから、保健体育費でございますが、保健体育費は子供さんたちのそれぞれの健康診断等々をベースに考えさせていただいております。

学校給食費でございますが、給食費につきましては、人件費等がここで削減されておりますが、学校の給食の運営に支障を来さないようにするというところでございます。

体育施設費につきましては、それぞれの施設管理運営費でございます。

非常に雑駁でございますが、以上でございます。

あとは、歳入等につきましては、これに書いてありますそれぞれの使用料等を見込んでおります。

以上でございます。

委員長 平成14年度の教育費についてのアウトラインというんでしょうか、それからこういう点を考慮して予算を組んだというような大まかな説明がありました。

何か、先生方、個々のことにつきましてご質問ございませんでしょうか。

飯沼委員 1ページの教育総務費の中で、3行目の教育研究指導費、これが大変上がっていますけれども、これは市民懇話会その他いろいろな費用だと思うんですけども、もうちょっとそのところをご説明いただきたいのが1つ。

それから、あと小学校はマイナスになっていて、中学校がプラスになっているんですけども、\_\_\_\_総計の費用ですね。去年より多くなっていますけれども、これは学校管理費のとも

ろが17.12%増ということですが、これはどういうことによるのかということをお教えしていただきたいと思います。

それと、社会教育費の博物館と美術館費、5.14%上がっていますが、これもご説明いただきたいので。

以上です。

企画管理室長 それでは、2ページになるんでしょうか、1億2,680万何がし増の数字でございますが、一番大きいのが、これは先ほど申しましたように、教科書が来年度から全面改定されます。そのために、指導書とそれから先生方にお渡しします教科書、これを計上させていただきました。これが約1億7,000万あります。その経費がそこにはね返っているというようにご理解いただいてもよろしいかというふうに思います。

それから、小学校費の金額が落ちているところは、一番大きくは校舎の修繕費が、今年度につきましてかなり大きく落ちております。それがこれに大きく響いてきているというのが小学校費であります。

それから、中学校の方が上がっていますが、一中の大規模改修が入っています。2億3,800万です。この分が大きくはね返ってくるということでございます。

博物館につきましては、運営費が550万ばかり増をさせていただきました。それから、美術館の方を増をさせていただきます。これは、これから行います展示、特別展等々にそれを向けていきたいというのが一つございます。

博物館につきましては、弥生人の脳というのがございまして、これはもう新聞でもご存じだと思いますが、昨年だったと思いますが、鳥取の方で弥生人の脳が発掘されました。その発掘に当たりまして、日本全国、これから展示をするんですが、松戸市\_\_\_\_先ほど申しま

したように、向こうの倉吉市と、鳥取県の方と、梨が取り持つ縁で非常に友好関係がきくと。

何としても松戸に第1回目の、全国の皮切りを松戸でやってほしいということで持ちかけておきまして、それが実ったんです。その前に国の国立博物館で、科学博物館が先にやりたいという話で、つないであつたんですが、国には勝てないということでございまして、まず国がやると思います。それが終わりましたら、こちらの方に、7月か8月ごろには博物館の方でできると思います。その経費をここに上げております。

飯沼委員 ありがとうございます。

委員長 ちょっと1つ、項目で、小学校、中学校それから社会教育の中にもあるんですが、緊急地域雇用特別基金事業というのがありますね。この内容はどのようなことですか。

企画管理室長 お答え申し上げたいと思います。

緊急地域雇用創出特別事業と申しますのは、国が今進めております。これは政府そのものが、雇用創出をどうしてするかということの中から始められている事業でございまして、松戸におきましては幾つかの事業がございまして。特に教育におきましては、学校の安全対策ということで今やっていますのが、スクールパトロールでございまして。昨年の6月に、大阪の池田小学校でああいう事件が起こりまして、2学期から、松戸市では単独でもってその事業に取り組みました。そうしましたら、本年度はその事業を補てんしていくというような形で、国の方からもいただきましたので、それを繰り入れていきたいというのが1つでございまして。

それから、もう一つは、総務課の方で、先ほど申しました机と椅子を、3年間で変えていきたいと。JIS規格が変わりましたので。今まではB判のサイズに対応できる机の面の大きさをでした。今、教科書等は全部A判になっており、そうなりますと、もう机から落ちちゃって、子供たちなかなか勉強しづらいということで、早く取りかえてあげたいという気持ちがありまして、今年度はそれに切りかわります。

ところが、廃棄になる机ですね。これは大体板と鉄パイプでできておきまして、この解体処分をする経費として550万ばかりを見させていただくということでございまして。

それから、教育施設課の方でやっておりますのが、各小・中学校の校内にございまして樹木の剪定でございまして。保護者の方々が、草取りや低木については少しはやっていただけるんですが、いかんせん松戸の学校は大きゅうございまして、余り高いところのものは剪定ができませんので、委託をしていきたいというふうに考えております。

それから、社会教育の分野がかなり大きいんですが、生涯学習の情報提供のシステムの構築をするための委託という形で、570万何がし。それから、こどもオフィスコーディネーターの配置ということで、これが子供たちの体験学習などの相談にあたります。それから、生涯学習コーディネーターということで、今度は生涯学習の視点から大人の方がメインに

なろうと思いますが、学習相談をしていくということでありませう。

そのほかには青少年会館の体育館の開放時に指導者を置きたいと。

それから、先ほど申しました竹紙の工房の管理を委託すると。

こういった形が、緊急地域雇用創出の事業として、とっている対策でございます。

委員長 そうすると、大体人件費ですか、これ。

企画管理室長 そうですね、委託料と人件費でございます。ほとんど人件費でございます。それから済みません、先ほど机の件がございましたが、小学校の机は6年計画で、中学校は3年計画でございます。

飯沼委員 今、教育の非常に話題になって、もう言い尽くされている地域と学校と保護者の関係ですけれども、学校によっては地域の方をお呼びして、いろいろご指導いただくと。その場合のお礼というか、謝礼などは、どのくらいことしは去年よりは多くなるのでしょうか。予算としてどこに入っているかわかりませんが。

各学校にもしそういうようなことでご協力いただいた方がいたら、指導料というか講師料というか、ボランティアでやっていただければただなんでしょうけれども、その辺はどういうような対応をなさるか。予算と関係があるかどうか。

教育総務課長 今、委員さんおっしゃったものは、平成14年度から完全実施されます総合的学習をにらんだ形でのご質問だというふうに考えておきまして、平成13年度につきましては試行期間ということでございまして、委員さんがおっしゃってございました、地域の方々等々にお支払いする報償的な意味を含めた予算が13年度につきましては、1校当たり年間3万円を計上させていただいたところでは。

14年度につきましては、これが完全実施になるというようなことから、1校当たり、この報償費、消耗品等も含めまして、小学校におきましては8万円、中学校につきましては10万円程度を計上しています。

このほか、また年度中途あるいは年度末になりまして、いろいろな備品等々の入札等がございますので、またそれで余剰が出たものにつきましては、学校の要望にこたえるような形で予算を配分していきたいというふうに考えています。

以上です。

委員長 今、課長がおっしゃったのは、どこの項目に入っているのか、ちょっと。

教育総務課長 総合的学習でございます。小学校、中学校の教育振興費の方に記載されていると思います。

委員長 この総合的な学習と……。今、飯沼さんおっしゃったのは、そういう要するに地域との連携の問題があるわけでしょうね。

本部長 ええ、ですから、この中で地域の方に参加していただいたことについて、有料の部分については報償費が支払われるような形を組んでおるといってごさいます。

委員長 そうすると、学校にしてみると、よく言われる地域の人材の活用とかというのがありますよね。そういう非常勤講師とか、そういうものについての手当はあるわけですか。この学校教育については。

教育総務課長 この範囲の中でやらせていただいております。

委員長 これからの課題でしょうけれどもね。課題というか、今進められていることだから、やはりそういうよく言われる地域と学校と保護者。そこら辺をにらんだいろいろ……。これはこれからの問題でもあるんですけども。

それから、今、課長おっしゃったように、この中から使えるということだけでも、総合的な学習の推進費という、やはりどちらかというハードの面が頭に浮かんじゃうんです。ですから、やはりそういう地域の人材の活用というようなこともあるから、やはり総合的と言った以上は、そういういろいろな施設も含め、ソフトの部分、人の問題も含めた総合的な配慮が必要だろうと思います。

これは精いっぱいいろいろ考えておられるようですけれども、これからの課題としては、そこら辺しっかりやる必要があると思います。

それと、さっきの、ちょっとこだわって悪いんですが、緊急地域雇用というでしょう。ですから、これは。早速そういう非常勤とか、今少人数学級とか少人数指導とか、教育とか、相当強い流れになってきています。そうすると、いきなりそういう正規の教員をふやすことは大変なんだけれども、非常勤の教員をふやすとか、いろいろ臨時の教員をふやすとか、そういうようなことを考える必要があると思うんですけども、これからの課題なんだけれども、そういうことを含んでいるのかなというのは。

本部長 まず、この緊急雇用につきましては、国の方で2種類ございまして、1つは、今回予算措置をしておりますのは旧労働省関係の予算でございまして、今、委員長がお話がありましたのは、これは文部科学省関係の予算でございまして、これには当然松戸市は手を挙げておるんですけども、この予算につきましては、県の教育委員会が一括してその事業を進めるということで、市町村レベルの教育委員会におりてきておりませんので、松戸市の予算にはのっていないということでごさいます。

委員長 今、県の方は、何か38人学級というんでしょう。それで、それを越えた部分でこれは  
配当しているというね。

本部長 恐らくそれに使われるだろうというふうには思いますけれども。

委員長 ただ、あれは本当に2階から目薬みたいなんだよね。

本部長 ただ、各地方の教育委員会の独自性を出す意味では、県が一括してやるというのはい  
かがなものかなというふうには思っておりますので、その辺については、次年度以降、もし  
あるとすれば、働きかけをしていかなければいけないのかなと。

委員長 次年度の問題になっちゃうんですけれども、やはり松戸も独自にそういう努力を少し  
ずつしていかないと。

本部長 市の予算としては、それをやっていかなくちゃいけないということで、今回のこの緊  
急雇用につきましては、県が一括という考え方は、どうも千葉県の場合はいろいろと地域的  
な事情がありますので、一括やることが果たして適切かどうかという問題も含んでおりま  
すので。

企画管理室長 先ほど、今話題になっております緊急雇用の特別基金でございますが、これ3  
年間でございまして、14年、15年、16年の3年間にわたって、国の方からの補助が出るとい  
う形になっております。

委員長 ある程度、国とか県からを当てにしているわけね、これは。

企画管理室長 全額がそうです。これは、それが終わった段階で継続があるのかどうかとい  
うのはわからないんです。

それと、先ほどは労働省の関係であとは文部科学省の関係の方ですが、かなり規制が厳し  
ゅうございまして、こういうものは使っちゃいけないと、ほとんどもうはじかれてしまう。  
結局は県の方から派遣になるのかなということです。

以上です。

教育長 緊急雇用対策も県教育委員会は、現場でもう少し使い勝手を幅広げようかなと思っ  
ても、ただいま室長が申したように、制約が非常に厳しい。だから、どんなに学校現場で効果  
が上がっても、雇用に結びつかないということになると、それはノーという、その制約があ  
ります。

それはさておきまして、これすべてサンセット方式、いわゆる時限立法ですので、期限が  
来れば、即廃止です。じゃ、その後各地方、松戸を含めて、それをやめてしまうのか継続す  
るのかという課題は必ずついて回りまして、原則、松戸市の財政当局の方針は、期限が切れ

たら、これ一たんは御破算にしますというスタンスなんで。それはそれとして、いろいろ議論はありますけれども、最初からそういう性格のものなんで、やむを得ないだろうというふうに思っていますから、2年なら2年で絶対に効果が上がる、効果が推しはかれる事業展開をしなければならないという使命があるかと思えます。

なお、相当に効果が上がったものについては、これは一たんはやめても、すぐ再開、形を変えて続けていくという、いけるぐらいのものにしていかなければいけないんじゃないかと。委員長 一つ願っていますことは、そういう教育現場に、やはり人的な資源をできるだけふやしていくというかな、そういうことが必要だろうと思っておりますので。

教育長 先ほど委員長にご指摘いただきまして、総合的学習を展開するにしても、地域と学校の連携を強めるにしましても、いろいろな講師招聘の問題やら何やらで経費のかかるのは、これは当然のことで、予算獲得の努力はしていきたいと思えますけれども、こういう時代ですから、潤沢にとはまいらないし、私は別にボランティアを安上がりを使うというふうなことは、決して思っておりませんけれども、やはり多くのボランティアの方たちに学校経営に参画してもらう方式を事務局の目標として、呼び水としての予算の使い方をしなければいけないというふうに思っておりますので、学校を取り巻く地域やボランティアの方々の輪を広げていく努力が必要だと思っております。

学校教育部長の前では失礼なんだけれども、ややまだ若干間口、門戸が開かれていないというものがあります。もっと門戸を開いていただいて、学校で活動してもらうボランティアの方を多く要請したいなと。そういう学校が出てくることを期待しております。

昨年、三鷹市にコンピュータ教育の関係で視察に参ったんですけれども、大変な地域連携をやっている学校が1カ所ありまして、それはただいま申し上げたような保護者の中から、あるいは地域社会の方々、学識経験者の方がわんさと集まってきて少人数授業を展開したり、いろいろな部活動まで含めて参画しているという姿、あれが日常茶飯事であれば、これは相当大変なことをやっているなと見てきました。

ただ、今後松戸市がこういう方針でやりたいといったら、全校、68校全部がやるというのはもう無理だというのはわかってまいりました。学校の総合的学習の地域連携の予算を、1校幾らと決めたら、全部預け上げるということになると、これだけでももう1,000万は軽く超えます。お金の話は余りしちやいけないんですけれども。

それで、本当に成果を上げている学校とほとんど成果を上げていない学校が出てきたとすれば、何のために同じ予算をつぎ込むんですかというふうな批判を免れません。いよいよ学

校評価の時代ですから、本当にこれをやるんだといって特色を出して、しかも成果の上がる  
ところにその予算が応分に配当されると。何もやらないところはお金もかからない。別の方  
向でやりたいというときには、別の方向にかかる費用をつけるというような方法に徐々に変  
えていかなければいけないなというふうに思っております。

財政当局の論理も、学校予算というのは、何かやると、すぐ掛ける68なんだと。たかが  
100万だろうといっても、68を掛けますと6,800万。そんな……。極論なんですけれども、  
こういう厳しい財政事情の時代になってきますと、なかなか説得力があるので、一般の市民  
の方もなるほどそうかというふうに最近思いつつあるんじゃないかと思ひまして、いい意味  
での特化した予算配分が必要じゃないかというふうに思っております。

委員長 今、だんだんそういう認識が深まりつつありますね。

あと、高等学校の方ですけれども、ここで海外研修生徒の派遣事業費で80万あります。こ  
れは具体的にはどういうことを考えていらっしゃるのか。

市立高校担当室長 これは、毎年当校の生徒10名をオーストラリアの姉妹都市にあります高校  
あるいはニュージーランドの姉妹校へ毎年派遣しているところでございます。交通費の負担  
額10名分であります。

委員長 10名分。そうすると、これは80万ですから一人8万円ですね。数といい金額といい、  
随分ささやかなんですけれども、やはり僕は市松の特色を出していかないと、ますます下降  
線に入っちゃいますね。

やはりその一つのポイントは、せっかく国際人文をつくっているんだから、やはりあそこ  
に入ったらみんな行ける。亜細亜大学というのはみんなやるんですよ。

本部長 国際人文につきましては全員でございます。これとは別に行っておりますので。

委員長 ちょっと今私も理解が十分ではありませんで、いいかげんなことを言っちゃって申しわ  
けなかったんですが、どこかしっかり特化していかなければと思ひまして。

やはりあそこへ行けば情報教育をしっかりやるとか、国際関係の語学力を含めて、あそこ  
へ行けば充実して勉強できるとか何かしないと負けますね。県立が8校もあるし、それから  
私立もあるから。

ですから、そういう点で、ぜひ今後ともそこら辺に力を入れてやっていただきたいなとい  
う気がいたします。

今、いろいろ限られた予算の中で、これも非常に十分な努力をなさってここまで来たんだ  
ろうと思ひますけれども。

飯沼委員 今、委員長がおっしゃったとおり、もう本当に予算が限られていて、大変な努力の跡がよくわかる予算書だなというふうに思います。

その中、もうあらゆるところが削られている中で、幼稚園のところは1.05%上がっているというのは、これはもう大変な努力だったんじゃないかなと思うんですけども、4ページを見ますと、その詳細が書いてあるんですけども、1.05%というのはどこにどういうふうに余計になっているのか、もしわかれば教えていただきたいんですが。

たまたま松戸の場合は、私立幼稚園が40園、公立が1園ですけども、この私立幼稚園振興事業費という、この辺をいろいろお考えいただいたのかなと思うんですけども、これからの松戸市民として、小学校、中学校、高校と進学するわけですけども、その大事な小学校の前の幼稚\_\_\_教育委員会は幼稚園担当なんですけども、保育園もそうだと思うんですけども。その辺をご理解いただいたのは大変うれしく思いますが、ちょっと補足説明をお願いできたらと思います。

教育総務課長 ただいまのご質問にお答えいたします。

幼稚園につきまして、主な増額でございますけれども、まず国の制度であります就園奨励費につきましては、各幼稚園とも同様な形で対応をしていきたいというふうに思っております、これは単純に児童数の増でございます。

幼稚園児補助金というのがございますけれども、これは市単独の事業でございます。満3歳児につきまして、ささやかですけども、500円の増額。幼稚園振興費補助金、これは県の方の補助金でございますけれども、施設補助につきまして、1園当たり1万円の額を補助させていただいたところでございます。

いずれにしても、国の方から、お話がありましたように、松戸市の幼児教育を私立の幼稚園が担うと、こういうところも考えながら、本来補助金の見直し等々は行っていかなくてはならない時期にもかかわらず、教育長の陣頭指揮もさることながら、財政当局、市長の方の理解を得ましてでございますけれども、上乘せさせていただいたところでございます。

今後とも鋭意努力していきたいというふうに考えております。

以上です。

飯沼委員 どうもありがとうございました。

大変これだけ厳しい予算の中において、ご配慮いただきながら就学前教育についても力を